

114 文の成分

制限時間は 30 分です。

80 点以上の合格点を目指しましょう。

点

文の中の働きを、文の成分をいいます。

主語 … 「何(誰)が」に当たる部分。

述語 … 「何だ」「どんなだ」「どうする」「ある(いる・ない)」に当たる部分。

修飾語 … 「何を・いつ・どこで・どのように」など、他の部分をより詳しく説明する部分。

接続語 … 前後の文や文節をつないで、いろいろな関係を示す部分。

独立語 … 他の部分とは直接関わりなく単独で働く部分。

下線部の文節の成分を、下から選んで書きましょう。(2 点 × 10 問 = 20 点)

①	木の葉が <u>ゆらゆら</u> と揺れている。		②	私は、 <u>中学一年生</u> です。	
③	<u>はい</u> 、私がそれをやります。		④	昨日、 <u>弟</u> が子犬を見つけた。	
⑤	頭が痛かった。 <u>けれども</u> 、会社に行った。		⑥	彼らは <u>公園</u> で野球をしている。	
⑦	風で <u>ろうそく</u> の火が <u>消えた</u> 。		⑧	<u>田中先生</u> 、この問題を教えて下さい。	
⑨	今日、 <u>友人</u> が家に遊びに来た。		⑩	寒いので、 <u>ストーブ</u> をつけた。	
	主語	述語	修飾語	接続語	独立語

下線部の連文節の成分を、下から選んで書きましょう。(2 点 × 10 問 = 20 点)

①	<u>大きな熊</u> が、山を下りてきた。		②	小さな子供が <u>にこにこ</u> 笑う。	
③	会場は、 <u>多くの観客</u> でいっぱいだ。		④	<u>私の宝物</u> 、それは家族と友達です。	
⑤	<u>時間があれば</u> 、図書館に行こう。		⑥	<u>日本代表チーム</u> が、金メダルをとった。	
⑦	<u>今日という日</u> 、いつまでも忘れない。		⑧	家の庭で、虫が <u>鳴いている</u> 。	
⑨	<u>山の向こう側</u> から朝日が昇る。		⑩	<u>急に雨が降った</u> ので、服がずぶぬれた。	
	主部	述部	修飾部	接続部	独立部

主・述の関係 … 「何が～どうする」という関係。

例) 自動車が目の前を走った。

修飾・被修飾の関係 … 「どんな○○」という関係。

例) 庭にきれいな花が咲いた。

接続の関係 … 「～ならば」「～する時」「～なので」という関係。

例) 病気なので、学校を休む。

並立の関係 … 働きが同じものが並んでいる関係。

例) 畑の野菜が強く健康に育つ。

補助の関係 … 前の語の意味を補う関係。

例) 妹の様子を見に行ってみる。

棒線と波線の文節どうし関係を書きましょう。(3 点 × 10 問 = 30 点)

①	今日は <u>父親も母親も</u> 休みだ。		②	明日 <u>雨ならば</u> 、図書館で勉強する。	
③	暖かい <u>光</u> が、窓から <u>差し込む</u> 。		④	<u>大きな犬</u> が公園で <u>ほえていた</u> 。	
⑤	部屋の明かりが <u>消えている</u> 。		⑥	<u>強く冷たい風</u> が吹きつける。	
⑦	小さい <u>猫</u> が庭に <u>いる</u> 。		⑧	<u>苦しかったけど</u> 、最後まで <u>がんばった</u> 。	
⑨	<u>すでに</u> 旅行の準備は <u>済んだ</u> 。		⑩	弟が真剣に本を <u>読んで</u> いる。	
	主・述	修飾・被修飾	接続	並立	補助

下線部の修飾語を受ける文節を、書き抜きましょう。(3 点 × 10 問 = 30 点)

①	川上から <u>大きな桃</u> が流れてきた。		②	<u>遠くに</u> 青い海が見える。	
③	<u>正しい</u> 答えを思いついた。		④	雲が <u>ゆっくり</u> と空を進む。	
⑤	<u>たいへん美しい</u> 絵がかかっている。		⑥	<u>水平線のかたに</u> 小さな島が見える。	
⑦	私は <u>人の役に立つ</u> 仕事につきたい。		⑧	<u>朝早く</u> 起きるのは気持ちがいい。	
⑨	<u>長年の研究</u> の成果が発表された。		⑩	<u>夜の十時頃</u> 、その男は駅に到着した。	

117 短歌

制限時間は 30 分です。

80 点以上の合格点を目指しましょう。

点

枕詞は、リズムを整えるための言葉で、歌の内容に関係なく、必ず特定の言葉と結び付きます。

白たへの→衣	ちはやぶる→神	たらちねの→母	あをによし→奈良	やくもたつ→出雲
むらぎもの→心	ぬばたまの→夜・髪	あしひきの→山・峰	ひさかたの→光・月	からころも→裾・袖

短歌を読んで、あとの問いに答えましょう。(5 点 × 10 問 = 50 点)

A	<p>韓衣 裾<small>すそ</small>に取りつき 泣く子らを ①置<small>き</small>きてそ来<small>き</small>ぬや 母<small>お母</small>なしにして [②防人歌]</p> <p>裾にしがみついて泣く子供らを、()。母親もいないのに。</p>
B	<p>ちはやぶる 神世<small>かみよ</small>も聞<small>き</small>かず たつた河 韓③紅<small>くれなゐ</small>に 水<small>みづ</small>くるとは [ありわらのなりひら]</p> <p>神の世の頃でも聞いたことがない。竜田川の紅葉が唐紅色に水を染めるなんて。</p>
C	<p>ひさかたの 光④のどげき 春<small>はる</small>の日に ⑤しづ心なく 花<small>はな</small>の⑥散<small>ち</small>るらむ [きのともり]</p> <p>光がのどかな春の日に、静かな心もなく、花は散るのだろう。</p>
①	線①の現代語訳を書きましょう。
②	線②の防人は、どのような仕事ですか。()沿岸を防衛する兵役。
③	線③を現代仮名遣いに直しましょう。
④	線④の現代語訳を書きましょう。
⑤	線⑤を現代仮名遣いに直しましょう。
⑥	線⑥を現代仮名遣いに直しましょう。
⑦	A の枕詞と枕詞に結び付く語を書きましょう。
⑧	B の枕詞と枕詞に結び付く語を書きましょう。
⑨	C の枕詞と枕詞に結び付く語を書きましょう。
⑩	短歌はいくつの音からなる詩ですか。

万葉集に多い二句切れや四句切れは五七調といわれ、古今・新古今に多い初句切れや三句切れは七五調といわれます。

短歌を読んで、あとの問いに答えましょう。(5 点 × 10 問 = 50 点)

A	<p>玉<small>たま</small>の緒<small>いと</small>よ 絶<small>た</small>えなばたえね ながらへば しのぶることの よわりもぞする [式子内親王]</p> <p>魂の緒よ、絶えるなら絶えてしまえ。生き長らえると、耐え忍ぶ心が弱ってしまう。</p>
B	<p>さびしさは その色<small>いろ</small>としも なかりけり 真木<small>まき</small>たつ山の 秋<small>あき</small>の夕暮<small>ゆふぐれ</small> [じゃくれんぼうし]</p> <p>さびしさはその色のせいということでもないのだなあ。杉やひのきが立つ山の秋の夕暮よ。</p>
C	<p>道のべに 清水<small>しみづ</small>流<small>なが</small>る 柳<small>やなぎ</small>かげ しばしとてこそ 立ちとまりつれ [さいぎょうぼうし]</p> <p>道端に清らかな川が流れ、柳の陰がある。少しのつもりが長く立ち止まってしまったなあ。</p>
①	A の短歌は何句切れですか。
②	B の短歌は何句切れですか。
③	C の短歌は何句切れですか。
④	A の短歌の調子を答えましょう。
⑤	B の短歌の調子を答えましょう。
⑥	C の短歌の調子を答えましょう。
⑦	C から、係りの語を抜き出しましょう。
⑧	C は、どの季節の情景を詠んだものですか。
⑨	秘めた恋心のつらさを詠んだ歌はどれですか。
⑩	理由のない寂しさを詠んだ歌はどれですか。

111 副詞・形容詞・形容動詞・連体詞

制限時間は 30 分です。

80 点以上の合格点を目指しましょう。

点

副詞は主に用言(動詞・形容詞・形容動詞)を修飾し、状態や程度を表します。

状態を表す副詞は、後に「する」をつけると見つけられます。例) きれいにする、ゆらゆらする、いつもする

程度を表す副詞は、後に「すごい」をつけると見つけられます。例) とてもすごい、もっとすごい、ややすごい

例外として、後に続く言葉が決まっている呼応の副詞があります。例) 決して遅くない。まるで夢のようだ。まさかできまい。

状態を表す副詞を書き抜きましょう。(3 点×6 問=18 点)

①	その木はどっしりとして見える。	<u>どっしり</u> と(する)	②	彼女はすぐに出て行った。	<u>すぐに</u> (する)
③	私は時々本を読む。	<u>時々</u> (する)	④	祖父は公園をゆっくり歩く。	<u>ゆっくり</u> (する)
⑤	彼らはどうにか目的地に着いた。	<u>どうにか</u> (する)	⑥	今朝は早く目が覚めた。	<u>早く</u> (する)

程度を表す副詞を書き抜きましょう。(3 点×6 問=18 点)

①	とても長い坂を登ってきた。	<u>とても</u> (すごい)	②	その通りはかなりにぎやかだ。	<u>かなり</u> (すごい)
③	今日は少し寒い。	<u>少し</u> (すごい)	④	電車がちょっと遅れているようだ。	<u>ちょっと</u> (すごい)
⑤	そのおいしいクッキーがもっとほしい。	<u>もっと</u> (すごい)	⑥	彼はたいへん優しい男の子だ。	<u>たいへん</u> (すごい)

呼応の副詞を書き抜きましょう。(3 点×6 問=18 点)

①	私たちはその博物館にぜひ行きたい。	<u>ぜひ</u> (～たい)	②	もし翼があれば、飛んでみたい。	<u>もし</u> (～ば)
③	私はその人のことを全く知らない。	<u>全く</u> (～ない)	④	なぜその商品は売れたのか。	<u>なぜ</u> (～か)
⑤	たとえ失敗しても大丈夫だ。	<u>たとえ</u> (～ても)	⑥	彼はたぶん来ないだろう。	<u>たぶん</u> (～だろう)

形容詞・形容動詞・連体詞は、体言(名詞)を修飾し、後に「もの」をつけると見つけられます。

例)形容詞 … 楽しいもの、形容動詞 … 静かなもの、連体詞 … おかしなもの

形容詞は、言い切りの形が「い」になります。例) 美しい、早い、大きい、やわらかい、青い

形容動詞は、語尾が「な」にも「だ」にもなります。例) きれいな→きれいだ、静かな→静かだ、不思議な→不思議だ

連体詞は、語尾「の・な・た・る」になります。例) この、大きな、おかしな、たいした、ある

下線部の品詞を、形容詞・形容動詞・連体詞の中から選んで書きましょう。(2 点×20 問=40 点)

①	<u>どの</u> 道を通ればいいですか。	<u>連体詞</u>	②	<u>小さい</u> 女の子が泣いている。	<u>形容詞</u>
③	外に出るのは <u>危険</u> だ。	<u>形容動詞</u>	④	富士山は日本一 <u>高い</u> 山だ。	<u>形容詞</u>
⑤	<u>例</u> の話聞かせてほしい。	<u>連体詞</u>	⑥	今日は波が <u>おだやか</u> だ。	<u>形容動詞</u>
⑦	一人ぼっちで <u>さびしい</u> 。	<u>形容詞</u>	⑧	<u>小さな</u> 村に神社があった。	<u>連体詞</u>
⑨	<u>たった</u> 数分で全部覚えた。	<u>連体詞</u>	⑩	優勝できて <u>うれしい</u> です。	<u>形容詞</u>
⑪	彼は <u>たいした</u> 人物だ。	<u>連体詞</u>	⑫	<u>鮮やかな</u> 色に染める。	<u>形容動詞</u>
⑬	彼は <u>りっぱな</u> 学者になった。	<u>形容動詞</u>	⑭	<u>いかなる</u> 時も、約束は守る。	<u>連体詞</u>
⑮	食料はこれで <u>十分</u> だろう。	<u>形容動詞</u>	⑯	試合に負けて <u>悲しか</u> った。	<u>形容詞</u>
⑰	外はまだ <u>暗か</u> った。	<u>形容詞</u>	⑱	<u>あらゆる</u> 可能性を考える。	<u>連体詞</u>
⑲	その芸能人の結婚式は <u>華やか</u> だった。	<u>形容動詞</u>	⑳	注射が <u>とても痛か</u> った。	<u>形容詞</u>

形容詞と形容動詞の活用は、未然形(～)、連用形(～た)、終止形(～。)、連体形(～とき)、仮定形(～ば)があります。

空欄に語幹と活用語尾を入れて、形容詞や形容動詞の活用表を完成しましょう。(3 点×2 問=6 点)

	基本形	語幹	未然	連用	終止	連体	仮定	命令	活用の種類
①	早い	<u>はや</u>	<u>かる</u>	<u>かっ</u>	<u>い</u>	<u>い</u>	<u>けれ</u>	○	○
②	静かだ	<u>しずか</u>	<u>だる</u>	<u>だっ</u>	<u>だ</u>	<u>な</u>	<u>なら</u>	○	○

114 文の成分

制限時間は30分です。

80点以上の合格点を目指しましょう。

点

文の中の働き、文の成分をいいます。

主語 … 「何(誰)が」に当たる部分。

述語 … 「何だ」「どんなだ」「どうする」「ある(いる・ない)」に当たる部分。

修飾語 … 「何を・いつ・どこで・どのように」など、他の部分をより詳しく説明する部分。

接続語 … 前後の文や文節をつないで、いろいろな関係を示す部分。

独立語 … 他の部分とは直接関わりなく単独で働く部分。

下線部の文節の成分を、下から選んで書きましょう。(2点×10問=20点)

①	木の葉が <u>ゆらゆら</u> と揺れている。	修飾語	②	私は、 <u>中学一年生</u> です。	述語
③	<u>はい</u> 、私がそれをやります。	独立語	④	昨日、 <u>弟</u> が子犬を見つけた。	主語
⑤	頭が痛かった。 <u>けれども</u> 、会社に行った。	接続語	⑥	彼らは <u>公園</u> で野球をしている。	修飾語
⑦	風で <u>ろく</u> の火が消えた。	述語	⑧	<u>田中先生</u> 、この問題を教えて下さい。	独立語
⑨	今日、 <u>友人</u> が家に遊びに来た。	主語	⑩	寒い <u>ので</u> 、ストーブをつけた。	接続語
主語		述語	修飾語		独立語

下線部の連文節の成分を、下から選んで書きましょう。(2点×10問=20点)

①	<u>大きな熊</u> が、山を下りてきた。	主部	②	小さな子供が <u>にこにこ</u> 笑う。	述部
③	会場は、 <u>多くの観客</u> でいっぱいだ。	修飾部	④	私の <u>宝物</u> 、それは家族と友達です。	独立部
⑤	<u>時間があれば</u> 、図書館に行こう。	接続部	⑥	<u>日本代表チーム</u> が、金メダルをとった。	主部
⑦	<u>今日という日</u> 、いつまでも忘れない。	独立部	⑧	家の庭で、虫が <u>鳴</u> いている。	述部
⑨	<u>山の向こう側</u> から朝日が昇る。	修飾部	⑩	<u>急に雨が降った</u> ので、服がずぶぬれた。	接続部
主部		述部	修飾部		独立部

主・述の関係 … 「何が～どうする」という関係。

例) 自動車が目の前を走った。

修飾・被修飾の関係 … 「どんな○○」という関係。

例) 庭にきれいな花が咲いた。

接続の関係 … 「～ならば」「～する時」「～なので」という関係。

例) 病気のので、学校を休む。

並立の関係 … 働きが同じものが並んでいる関係。

例) 畑の野菜が強く健康に育つ。

補助の関係 … 前の語の意味を補う関係。

例) 妹の様子を見に行ってみる。

棒線と波線の文節どうし関係を書きましょう。(3点×10問=30点)

①	今日は <u>父親も母親も</u> 休みだ。	並立	②	明日 <u>雨ならば</u> 、図書館で勉強する。	接続
③	暖かい <u>光</u> が、窓から <u>差し込む</u> 。	主・述	④	<u>大きな犬</u> が公園で <u>ほえて</u> いた。	修飾・被修飾
⑤	部屋の明かりが <u>消</u> えている。	補助	⑥	<u>強く冷たい</u> 風が吹きつける。	並立
⑦	小さい <u>猫</u> が庭に <u>いる</u> 。	主・述	⑧	<u>苦しかったけど</u> 、最後まで <u>がんば</u> った。	接続
⑨	<u>すでに</u> 旅行の準備は <u>済</u> んだ。	修飾・被修飾	⑩	弟が真剣に本を <u>読</u> んでいる。	補助
主・述		修飾・被修飾	接続		並立
補助					

下線部の修飾語を受ける文節を、書き抜きましょう。(3点×10問=30点)

①	川上から <u>大きな桃</u> が流れてきた。	桃(が)	②	<u>遠く</u> に青い海が見える。	見える
③	<u>正しい</u> 答えを思いついた。	答え(を)	④	雲が <u>ゆっくり</u> と空を進む。	進む
⑤	<u>たいへん美しい</u> 絵がかかっている。	絵(が)	⑥	<u>水平線</u> のかたに <u>小さな</u> 島が見える。	見える
⑦	私は <u>人の役に立つ</u> 仕事につきたい。	仕事(に)	⑧	<u>朝早く</u> 起きるのは気持ちがいい。	起きる
⑨	<u>長年の研究</u> の成果が発表された。	成果(が)	⑩	<u>夜の十時頃</u> 、その男は駅に到着した。	到着した

117 短歌

制限時間は 30 分です。

80 点以上の合格点を目指しましょう。

点

枕詞は、リズムを整えるための言葉で、歌の内容に関係なく、必ず特定の言葉と結び付きます。

白たへの→衣	ちはやぶる→神	たらちねの→母	あをによし→奈良	やくもたつ→出雲
むらぎもの→心	ぬばたまの→夜・髪	あしひきの→山・峰	ひさかたの→光・月	からころも→裾・袖

短歌を読んで、あとの問いに答えましょう。(5点×10問=50点)

A	からころも すそ 韓衣 裾に取りつき 泣く子らを ①置きてそ来ぬや 母なしにして 裾にしがみついて泣く子供らを、()。母親もいないのに。	[②防人歌]
B	ちはやぶる かみよ 神世も聞かず たつた河 韓③紅に 水くるとは 神の世の頃でも聞いたことがない。竜田川の紅葉が唐紅色に水を染めるなんて。	[在原業平]
C	ひさかたの 光④のどげき 春の日に ⑤しづ心なく 花の⑥散るらむ 光がのどかな春の日に、静かな心もなく、花は散るのだろう。	[紀友則]
①	線①の現代語訳を書きましょう。	置いて来てしまった
②	線②の防人は、どのような仕事ですか。	(九州)沿岸を防衛する兵役。
③	線③を現代仮名遣いに直しましょう。	くれない
④	線④の現代語訳を書きましょう。	のどかな
⑤	線⑤を現代仮名遣いに直しましょう。	しず
⑥	線⑥を現代仮名遣いに直しましょう。	ちるらん
⑦	Aの枕詞と枕詞に結び付く語を書きましょう。	韓衣→裾
⑧	Bの枕詞と枕詞に結び付く語を書きましょう。	ちはやぶる→神
⑨	Cの枕詞と枕詞に結び付く語を書きましょう。	ひさかたの→光
⑩	短歌はいくつの音からなる詩ですか。	三十一音

万葉集に多い二句切れや四句切れは五七調といわれ、古今・新古今に多い初句切れや三句切れは七五調といわれます。

短歌を読んで、あとの問いに答えましょう。(5点×10問=50点)

A	玉の緒よ 絶えなばたえね ながらへば しのぶることの よわりもぞする 魂の緒よ、絶えるなら絶えてしまえ。生き長らえると、耐え忍ぶ心が弱ってしまう。	[式子内親王]
B	さびしさは その色としも なかりけり 真木たつ山の 秋の夕暮 さびしさはその色のせいということでもないのだなあ。杉やひのきが立つ山の秋の夕暮よ。	[寂蓮法師]
C	道のべに 清水流るる 柳かげ しばしとてこそ 立ちとまりつれ 道端に清らかな川が流れ、柳の陰がある。少しのつもりが長く立ち止まってしまったなあ。	[西行法師]
①	Aの短歌は何句切れですか。	二句切れ
②	Bの短歌は何句切れですか。	三句切れ
③	Cの短歌は何句切れですか。	三句切れ
④	Aの短歌の調子を答えましょう。	五七調
⑤	Bの短歌の調子を答えましょう。	七五調
⑥	Cの短歌の調子を答えましょう。	七五調
⑦	Cから、係りの語を抜き出しましょう。	こそ
⑧	Cは、どの季節の情景を詠んだものですか。	夏
⑨	秘めた恋心のつらさを詠んだ歌はどれですか。	A
⑩	理由のない寂しさを詠んだ歌はどれですか。	B

119 漢文①

制限時間は30分です。

80点以上の合格点を目指しましょう。

点

故事成語とは、昔の中国の有名な話から生まれた言葉で、生きていくうえでの戒めや励ましとして用いられます。

例) 五十歩百歩→本質的には大きな差がないこと。 背水の陣→決死の覚悟で物事を行うこと。

文章を読んで、あとの問いに答えましょう。(5点×10問=50点)

<p>楚人に盾と矛とを①鬻ぐ者有り。 ②之を誉めて③曰はく、 「我が④盾の堅きこと、能く陥すもの莫きなり。」と。 又、其の矛を誉めて曰はく、「吾が⑤矛の利きこと、 物に於いて陥さざる無きなり。」と。 或ひと曰はく、「子の矛を以つて、子の盾を⑥陥さば、如何。」 と。⑦其の人応ふること能はざるなり。</p>	<p>楚の国の人で盾と矛を()者がいた。 ()を自慢して言うには、 「私の盾の堅いことといったら、突き通せるものはないのだ。」と。 又、その矛を自慢して言うには、「私の矛の鋭いことといったら、 どんな物でも突き通さないことはないのだ。」と。 ある人が言うには、「あなたの矛で、あなたの盾を突いたらどうなるか。」と。その人は答えることができなかった。</p>
--	--

①	線①の現代語訳を書きましょう。	売る
②	線②は何を指していますか。	盾
③	線③を現代仮名遣いに直しましょう。	いわく
④	線④をどのくらいだと説明していますか。	たいへん堅いので、突き通せるものはない。
⑤	線⑤をどのくらいだと説明していますか。	たいへん鋭いので、突き通せないものはない。
⑥	線⑥を現代仮名遣いに直しましょう。	とおさば
⑦	線⑦で、なぜその人は答えられなかったのですか。	矛と盾の話のつじつまが合わないことに気付いたから。
⑧	「矛盾」という故事成語の意味を書きましょう。	話のつじつまが合わないこと。
⑨	「蛇足」という故事成語の意味を書きましょう。	余計なものを付け足すこと。
⑩	「推敲」という故事成語の意味を書きましょう。	詩や文章の言葉をよく練り上げること。

漢文を読むとき、レ点がある場合、後の一字から、すぐ前の一字に返って読みます。

一二点がある場合、一を読んでから二に返って読み、上下点がある場合、上を読んでから下に返って読みます。

返り点に従って読む順番を数字で書きましょう。(5点×6問=30点)

①	1	3 レ	2	5 レ	4	②	3 レ	2 レ	1	5 レ	4
③	1	4 二	2	3 一	5	④	5 二	1	2	3	4 一
⑤	5 二	1	3 レ	2	4 一	⑥	3 二	1	2 一	5 レ	4

返り点に従って読む順番を数字で書きましょう。(5点×4問=20点)

①	7 二	1	4 レ	3 レ	2	10 下	5	6 一	8	9 上
②	3 レ	2 レ	1	9 下	4	7 二	5	6 一	8 上	10
③	4 下	8 二	1	2	3 上	5	7 レ	6	10 レ	9
④	6 二	1	3 レ	2	5 レ	4	7	10 下	8	9 上